

労働災害防止の取組の強化について（要請）

平素より、労働安全衛生の推進に当たり、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京労働局におきましては、第13次東京労働局労働災害防止計画（平成30年度からの5か年計画）に基づき「Safe Work TOKYO」のロゴマークの下、「トップが打ち出す方針、みんなで共有 生み出す安全・安心」をキャッチフレーズとする官民一体となった労働災害防止に向けた取組を推進しております。

一方で、管内の労働災害の発生状況をみると、休業4日以上死傷者数は、平成21年を底として、増加傾向にあります。

特に、平成30年は11月末時点で前年同期比687人（9.0%）増加し、10年ぶりに年間1万人を超えるおそれがあります。

労働災害の増加には、様々な背景があるものと考えられます。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に起因する建設需要の増加や経済の活性化もその一因と考えられます。一部の業種で就業人口の増加に伴って労働災害の増加が見られる一方で、人手不足や労働力の高齢化に伴う災害の増加も懸念されます。

しかしながら、いかなる経済情勢であれ、労働災害は本来あってはならないものです。労働災害のない職場づくりを進めることは、人材を確保・養成し、業界全体が健全に発展し続ける上でも、大変重要なことです。

関係事業者団体におかれましては、労働災害防止に係る下記の取組を実施し、会員事業場に対する指導・啓発を実施していただきますよう、要請いたします。

記

1 年末年始における取組

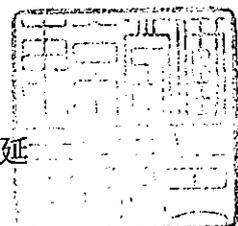
平成30年は、特に1月に冬期特有の労働災害が増加したことから、年末年始にかけて、冬期の労働災害防止を傘下会員事業場に呼びかける。

2 次年度以降の継続した取組

事業者団体として、業界内における労働災害防止のための取組を強化し、次年度以降継続して実施することを検討すること。

平成30年12月21日

厚生労働省東京労働局長 前田 芳延



年末・年始 ^{セーフ}Safe ^{ワーク}Work 推進強調期間

何かと慌ただしくなる年末・年始。

忙しさのあまり、定められた手順やルールをつい省略してしまう…

大掃除や棚卸しの時に、脚立やはしご、足場代わりに乗った椅子などから落ちそうになる…

凍結した路面、雨や雪で濡れた階段で転びそうになる…

そんなことはありませんか？

年末年始は、季節特有の労働災害が起こりがちです。

東京労働局では、12月1日から1月31日までの期間を

「**年末・年始 Safe Work 推進強調期間**」として、労働災害防止を呼びかけます。



期間 平成 30 年 12 月 1 日 (土) から 平成 31 年 1 月 31 日 (木) まで

(期間中に、Safe Work ロゴマーク  の活用勸奨や、労働災害防止のためのパトロール、事業者の方々への取組要請などを東京労働局・労働基準監督署から行います)

事業者の皆さんの実施事項 ~ 次の取組をお願いします ~

年末年始の繁忙期をとらえた計画的、かつ、安全衛生に配慮した事業の運営

繁忙期には、安全衛生に配慮した計画的な事業運営を行うことが特に重要です。

労働災害防止の気運の醸成に向けた取組

Safe Work ロゴマークの掲示、管理職や従業員への研修の実施、労働安全衛生に関する行事の開催、安全標語の募集を行うなど。

経営トップによるパトロールの実施

安全衛生大会等の開催

積雪・凍結等、冬期における転倒防止、交通労働災害防止対策の徹底

大掃除や棚卸し等の作業における脚立・はしごからの墜落、転落防止対策の徹底

過去に発生した災害を踏まえた労働災害防止対策の徹底

不安全行動防止のための「一人 KY (危険予知)」等の実施

その他、本期間にふさわしい安全衛生の取組

上記以外にも安全衛生の取組はたくさんあります。

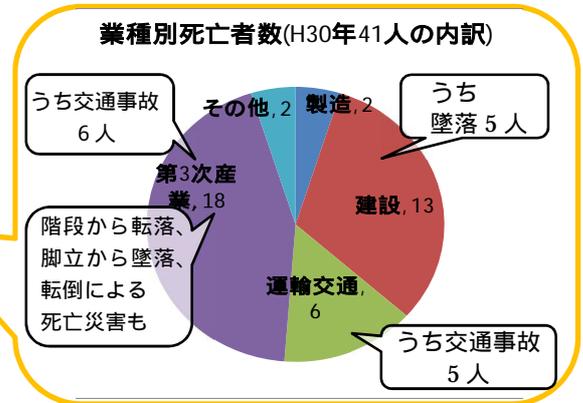
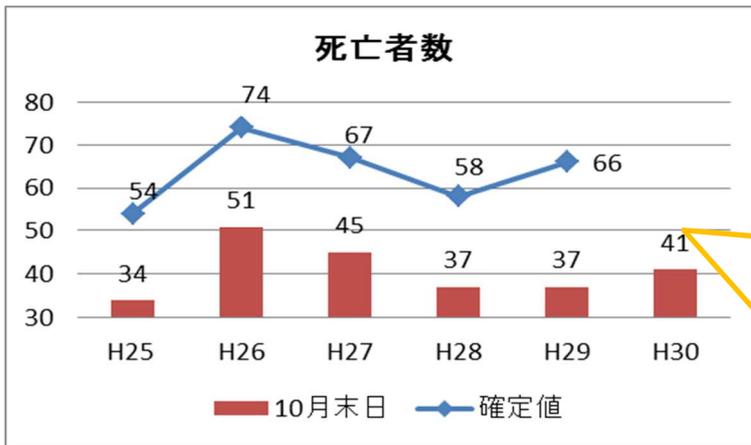


東京労働局・労働基準監督署では、“Safe Work TOKYO”の下、「**トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心**」をキャッチフレーズに労働災害防止の取組を推進しています。

平成30年(10月末時点)の東京労働局管内の労働災害発生状況は、以下のとおりです。
各事業場において、労働災害防止に向けた取組をお願いします!

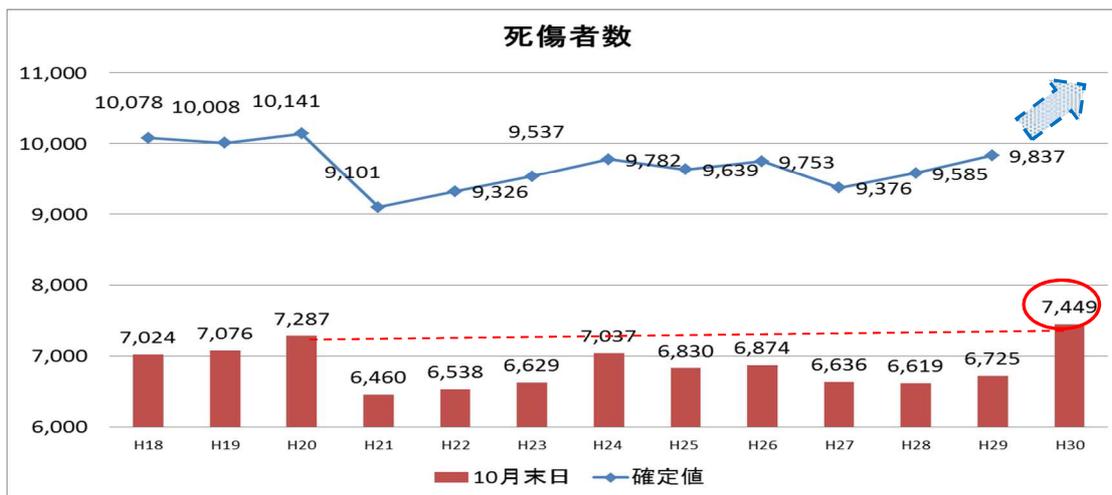
死亡者数

- ・前年比4人増加。製造業で2人、運輸交通業で3人、第三次産業で7人増加。
- ・墜落・転落で13人、交通事故で11人死亡した。



死傷者数

- ・前年比724人増加。**平成20年以来10年ぶりに、年間で1万人を超えるペース**
- ・転倒災害が多発。(冬季における降雪・通路等の凍結による転倒災害の増加も懸念)
- ・製造業のはさまれ巻き込まれ災害、運輸交通業の交通事故、飲食店の切れこすれ災害も多発



1万人を超えるおそれ!

- ・前年比724人増
- ・年間1万人を超えた平成20年の10月末時点と比較しても162人増

災害事例(12月~1月に発生)

建設業
(年齢:40代)
事務所階段を移動中、階段に雪が付着していたため転落
左脛骨骨折・休業1ヶ月

スーパーマーケット
(年齢:50代)
惣菜売り場の床が濡れていたため、足を滑らせ転倒
頭部挫傷・休業2週間

運送業
(年齢:60代)
公道において、トラックから荷降ろし中、足を踏み外し、転落
左鎖骨骨折・休業1ヶ月

飲食店
(年齢:40代)
厨房内で、食材を切っていたところ誤って包丁で指を切った
左中指切傷・休業17日